

## 寄贈図書リスト

宇宙入門, 池内了, 288頁, 三五判, 880円+税, 角川学芸出版

惑星形成の物理, 井田茂・中本泰史, 138頁, A5判,

2,000円+税, 共立出版

理系ジェネラリストへの手引き, 岡村定矩・三浦孝夫・玉井哲雄・伊藤隆一, 328頁, A5判, 2,200円+税, 日本評論社

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお, 原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

## 人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

### 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教員

1. 准教授1名
2. (1) 広域理学講座  
(2) 東京都文京区本郷7-3-1
3. 天文学
4. 天文学専攻には, 観測的宇宙論, 銀河天文学, 高エネルギー天体物理学, 太陽恒星物理学, 星間物理学, 系外惑星科学等の研究を行っているグループ (理論および観測) があります (詳しくは, <http://www.astron.s.u-tokyo.ac.jp> をご覧ください)。これらのグループおよび理学系研究科附属天文学教育研究センターのグループとも協調しながら, 大学院および学部教育に熱意をもって取り組み, 観測・理論の双方を視野に入れて, 世界第一線の研究をリードできる方を求めます。
5. (1) 着任時期: 決定後本年度内なるべく早い時期  
(2) 当初5年, その後審査を経て任期なしポストに移行
6. 博士の学位を有し, 天文学の教育研究を主導的立場で展開でき, 大学院及び学部教育における講義および演習等を担当できる, 平成27年度末時点において40歳未満の女性研究者

7. (1) 履歴書 (2) これまでの研究教育業績の概要 (3) 研究業績目録および主要な原著論文3編の別刷もしくはコピー (4) 今後の研究計画および教育への抱負 (5) 応募者に関する所見を伺える方2名の氏名ならびに連絡先
8. 平成27年6月30日 (火) 必着
9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学大学院理学系研究科天文学専攻事務室  
(2) 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻長  
柴橋博資  
Tel: 03-5841-4256  
e-mail: [shibahashi@astron.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:shibahashi@astron.s.u-tokyo.ac.jp)
10. 応募書類の封筒表面には, 「人事応募書類」と朱書きのうえ, 簡易書留等, 配達記録の残る方法で送付してください。電子メールによる応募は受け付けません。なお, 特に要望がない限り, 応募書類は返却いたしません。
11. 本公募は, 本学の大学強化推進の一環として, 文部科学省国立大学改革強化推進補助金 (特定支援型) を活用して行うものであり, 多様な人材の実現に向けて若手女性教員を積極採用する意欲的取り組みの一つです。「雇用対策法施行規則」第1条の3第1項第3号ニに該当するため, 「雇用対策法」第10条 (募集及び採用における年齢にかかわらず均等な機会の確保) の適用対象外となります。多くの方々の応募を期待しています。東京大学は, 男女共同参画を積極的に推進しています。詳しくは, 理学系研究科男女共同参画基本計画 <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html> をご覧ください。

### LLP 京都虹光房組合員

1. 組合員・若干名
2. (1) 特になし

(2) 京都府京都市

3. 天文学, 観測装置開発, 天文教育および天文学関連分野
4. LLP京都虹光房は, 天文学を専門とした研究者の新たなキャリア領域を拓くことを目指した事業組合です。組合員個々の専門性を活かし, 天文学や光にかかわる技術・製品, 教育サービスを提供する事業を展開しています。京都虹光房の理念を共有し, 共に新しい事業を創造する組合員を募集します。LLP京都虹光房の事業内容等の詳細については, Webページ (<http://www.kyoto-nijikoubou.com>) をご覧ください。
5. (1) 2016年4月1日(もしくは決定後できるだけ早い時期)  
(2) 任期なし。
6. 理学, 工学, 教育学など, 天文学およびその関連分野において, 修士もしくは博士の学位を有する者, もしくは採用時までには修了見込みの者
7. (1) 履歴書(写真貼付) (2) 研究教育業績書(任意書式) (3) 主要な業績について, 論文, 学会発表資料等のコピー(5編程度まで) (4) 自己アピール書(「自身のこれまでの研究実績とそこから得られた技能・技術, および現在の興味」, 「天文学ビジネスにおいて, それらの技能や技術を社会に活かすためのアイデア, 目標」を含めてA4 1~2枚程度にまとめてください)。
8. 2015年6月30日(必着)
9. (1) 〒606-0003 京都市左京区岩倉南大鷲町17-203  
LLP京都虹光房組合員募集係  
(2) LLP京都虹光房組合員募集係  
e-mail: jinji@kyoto-nijikoubou.com
10. 封筒の表に「組合員応募書類」と明記してください。原則として応募書類は返却いたしません。
11. 本公募は, 雇用契約ではありません。採用の場合は組合員契約を締結し, 既定額の出資が必要になります。組合員契約から最大で2年間は, 毎月定額の分配金(修士: 22万円, 博士: 30万円)と家賃補助を受け取ることができます。3年日以降は, 担当したプロジェクトで得た利益に対して弊社規程の貢献度を加味した額の分配金を配分します。詳細については, 直接お問い合わせください。

## 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

## 東邦大学理学部物理学科専任教員

1. 2014年5月(第107巻第5号)
2. 関口雄一郎(京都大学基礎物理学研究所特定研究員)
3. 2015年4月1日

## 関西学院大学理工学部物理学科専任教員

1. 2014年7月(第107巻第7号)
2. 平賀純子(東京大学 助教)  
松浦周二(宇宙科学研究所 助教)  
瀬田益道(筑波大学講師)
3. 2015年4月1日

## 琉球大学理学部教員(准教授)

1. 2014年12月(第107巻第12号)
2. 谷口敬介(東京大学総合文化 助教)
3. 2015年4月1日

## 賞の推薦

### 2015年度井上學術賞(井上科学振興財団)受賞候補者の募集

#### 第32回井上學術賞推薦要項

1. 概要:  
自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた50歳未満の研究者に対し, 學術賞(賞状および金メダル, 副賞200万円)を贈呈します。
2. 募集方法:  
指定の関係36学会, および財団の役員・評議員等からの推薦。
3. 日本天文学会からの推薦件数: 2件
4. 推薦締切日:  
2015年8月16(日)日本天文学会事務所必着。
5. ダウンロードした推薦書に必要事項を記入のうえ, メール添付ファイルとして, jim@asj.or.jp宛てお送りください。メールの件名は, 「第32回井上學術賞応募氏名」としてください。井上學術賞, 募集要項, 推薦書等の詳細は, 下記URLを参照してください。(4月2日現在未更新)  
<http://www.inoue-zaidan.or.jp>

**研究助成****公益財団法人住友財団  
2015年度2件の研究助成****基礎科学研究助成**

助成の趣旨：科学の進歩は社会の発展に大きな貢献を果たしてきました。科学は人類社会の未来を拓くことにつながるものです。

この助成は、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。

助成対象研究：理学（数学、物理学、化学、生物学）の各分野およびこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）。

応募資格：「若手研究者」（所属が営利企業の場合には応募不可です）

助成金：総額1億6,000万円（1件当たり最大 500万円）  
助成件数：90件程度

募集期間：2015年4月15日（水）～6月30日（火）  
※e-mailの締切は6月16日（火）となっております。ご注意ください。

**環境研究助成**

助成の趣旨：現在、人類が直面している大きな問題の一つに環境問題があります。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生物種の減少、食料と人口、砂漠化、公害等さまざまな問題があり、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。この助成は、環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析とさまざまな対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行うものです。

助成対象研究：

- ・一般研究 環境に関する研究（分野は問いません。）
- ・課題研究 2015年度募集課題「喫緊の環境問題解決のための学際研究または国際共同研究」

応募資格：研究者の所属が営利企業（兼務を含む）の場合には応募不可ですが、ほかには特に制約はしていません。

助成金：総額1億円  
一般研究8,000万円 1件当たり最大 500万円

課題研究2,000万円 1件当たり最大1,000万円  
助成件数：一般研究 50件程度  
課題研究 2件を予定

募集期間：2015年4月15日（水）～6月30日（火）  
※e-mailの締切は6月16日（火）となっております。ご注意ください。

応募方法：財団ホームページ（本ページ最下部URL）から申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、e-mailと郵送の両方でお送りください。

連絡先：〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16

住友芝大門ビル2号館

公益財団法人 住友財団

TEL: 03-5473-0161 FAX: 03-5473-8471

e-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

**研究会・集案案内****京都大学 飛騨天文台一般公開のお知らせ**

京都大学飛騨天文台では、来たる7月25日（土）に一般公開を行います。施設の公開と天体観望会を行い、京大天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明します。事前申込が必要で、定員100名（抽選）。

〈一般公開〉

日 時：2015年7月25日（土） 13:00～20:30

場 所：岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台  
公開施設：ドームレス太陽望遠鏡（DST）、太陽磁場活動望遠鏡（SMART）

65 cm屈折望遠鏡、60 cm反射望遠鏡

内 容：DSTによる太陽像と分光スペクトル観望（昼）  
SMARTによる太陽像の観察（昼）と解説  
65 cm屈折望遠鏡および小型望遠鏡による  
夜間天体観望（土星など）  
最先端の天文学研究解説（講演）など

〈交通機関〉

公共交通機関がありませんので、JR高山駅または上宝支所（高山市上宝町本郷）までお越しください。JR高山駅と上宝支所からシャトルバス（有料）を運行します。

詳細は、附属天文台のホームページをご覧ください。

〈申込方法〉

ホームページからお申込みください。

受付期間：6月10日（水）～6月25日（木）

定員：100名（申込み多数の場合は抽選）  
 抽選結果は、7月始めにお知らせします。

**会務案内**

<問合せ先>

〒506-1314 岐阜県高山市上宝町蔵柱  
 京都大学飛騨天文台  
 Tel: 0578-86-2311 Fax: 0578-86-2118  
 e-mail: hida2015@kwasan.kyoto-u.ac.jp  
 e-mailでのお問い合わせの場合は、件名を「7/25 飛騨一般公開」としてください。

<附属天文台ホームページ>

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/>

<主催> 京都大学大学院理学研究科附属天文台, NPO  
 法人花山星空ネットワーク

<後援> 岐阜県高山市

<協力> 高山観光バス

**日本天文学会 2015年春季年会報告**

2015年春季年会は、3月18日(水)から21日(土)の4日間、大阪大学豊中キャンパス(大阪府)にて口頭講演会場9、ポスター会場1を使って開催された。講演件数は口頭講演が465件、ポスター講演が212件で、合計677件の講演があった。年会参加者は989名であった。ジュニアセッションの参加者が約500名あった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え教育フォーラム、特別セッション2件、企画セッション2件も開催された。開催地理事の林田清氏や大阪大学の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の54名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する(敬称略)

	3月18日(水)	3月19日(木)		3月20日(金)		3月21日(土)
	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30
A会場	銀河 久野成夫 (筑波大学)	銀河 松本浩典 (名古屋大学)	分子雲衝突 水野範和 (国立天文台)	分子雲衝突 福井康雄 (名古屋大学)	HSC 田中賢幸 (国立天文台)	HSC 浜名崇 (国立天文台)
B会場	高密度星 米徳大輔 (金沢大学)	高密度星 北本俊二 (立教大学)	高密度星 坂本貴紀 (青山学院大学)	高密度星 三原建弘 (理化学研究所)	高密度星 小嵐康史 (広島大学)	高密度星 海老沢研 (ISAS/JAXA)
C会場	恒星 川端弘治 (広島大学)	恒星 須田拓馬 (東京大学)	星間現象 内山秀樹 (静岡大学)	星間現象 川中宣太 (東京大学)	星間現象 齋藤正雄 (国立天文台)	星間現象 長谷川哲夫 (国立天文台)
D会場	太陽 永田伸一 (京都大学)	太陽 磯部洋明 (京都大学)	太陽 坂尾太郎 (ISAS/JAXA)	太陽 横山央明 (東京大学)	太陽 今田晋亮 (名古屋大学)	太陽 末松芳法 (国立天文台)
E会場	銀河団 星野晶夫 (立教大学)	宇宙論 井上開輝 (近畿大学)	宇宙論 平野耕一 (都留文科大学)	銀河形成 松原英雄 (ISAS/JAXA)	銀河形成 太田耕司 (京都大学)	銀河形成 菅井肇 (東京大学)
F会場	太陽系 奥住聡 (東京工業大学)	教育・他 古荘玲子 (都留文科大学)	教育・他 濤崎智佳 (上越教育大学)	活動銀河核 福江純 (大阪教育大学)	活動銀河核 松岡良樹 (国立天文台)	活動銀河核 和田桂一 (鹿児島大学)
G会場	星・惑星 松本倫明 (法政大学)	星・惑星 野村英子 (東京工業大学)	星・惑星 相川祐理 (神戸大学)	星・惑星 武藤恭之 (工学院大学)	星・惑星 佐藤文衛 (東京工業大学)	星・惑星 小久保英一郎 (国立天文台)
H会場	超新星爆発 富永望 (甲南大学)	超新星爆発/飛翔観 田中雅臣 (国立天文台)	飛翔観 山村一誠 (ISAS/JAXA)	飛翔観 玉川徹 (理化学研究所)	飛翔観 森浩二 (宮崎大学)	飛翔観 村上弘志 (東北学院大学)
I会場	地上観 阪本成一 (国立天文台)	地上観 中島拓 (名古屋大学)	地上観 木野勝 (京都大学)	地上観 大屋真 (国立天文台)	地上観 柳澤顕史 (国立天文台)	地上観 沖田博文 (国立天文台)

## 〈記者会見〉

春季年会の前日、3月17日（火）14:00から大阪大学にて行われた。山田副会長からの挨拶と日本天文学会春季年会、公開講演会、林賞、ジュニアセッションなどの紹介の後、2件の研究発表についての報告を行った。報道機関6社の出席があった。

## ■研究発表

- (1) 「Ia型超新星における核融合反応の最終プロセスをX線で解明」  
山口弘悦（NASAゴダードスペースフライトセンター・メリーランド大学）ほか  
関連する講演番号: K14a
- (2) 「国際天文学連合（IAU）の国際的な天文学普及活動の現状と課題について—日本の天文学コミュニティの知られざる国際貢献の紹介を兼ねて—」  
縣秀彦（国立天文台天文）ほか  
関連する講演番号: Y22a

（山田亨）

## 〈特別セッション〉

【ASTRO-H特別セッション：ASTRO-Hが拓くサイエンス】

ASTRO-H特別セッションは、年会一日目の2015年3月18日15:15から約2時間、A会場で開催され、300名弱の参加者があった。最初に、プロジェクトマネージャーの高橋忠幸氏（JAXA/ISAS）から、ASTRO-H衛星の目的、概要、進捗状況、国際協力などについて、全般的な報告があった。ASTRO-Hは超精密分光、硬X線撮像、ガンマ線偏光観測、幅広いエネルギー帯域、いずれの点においても画期的な衛星であり、打ち上げは2015年度に予定されていること、その準備は多くのメンバーの協力のもと、幾多の困難を乗り越えて順調に進められていること、他のX線観測衛星や他波長の観測装置との連携が大事であることが報告された。

次に「ASTRO-Hの目指すサイエンス」と題して、3人の若手が観測テーマごとに講演を行った。「ブラックホール」がテーマの山田真也氏（首都大東京）は、活動銀河核の構造解明やブラックホール降着流・噴出流のダイナミクス理解がどのように進展するかについて、「超新星残骸」がテーマの勝田哲氏（JAXA/ISAS）は、Ia型超新星を中心に、ASTRO-H衛星観測がイジェクターの組成の決定を通じて、爆発機構解明にいかにか本質的な役割を演じるかについて、「銀河団」がテーマの田村隆幸氏（JAXA/ISAS）は、ASTRO-H衛星が銀河団ガスのバルクな運動や乱流の実体をどこまで明らかにできるかなどについて、それぞれ紹介をし

た。いずれも、現実的なシミュレーション結果に基づく講演であり、すでにデータが得られたと錯覚するほどの迫力あった。

最後に、X線以外の波長の研究者を代表して吉田道利氏（広島大）が「ASTRO-Hへの期待」というタイトルで講演を行った。自身の銀河からのアウトフローの観測を例に、ASTRO-H衛星による観測がいかにか他波長観測に大きなインパクトを与えるかとの期待を込めた講演であった。多くの聴衆に埋め尽くされた会場は終始、熱気に包まれ、ASTRO-H衛星にかける熱い期待が日本の天文コミュニティに広く浸透していることを十分に感じ取ることができるセッションであった。

（嶺重慎）

## 【特別セッション：東アジア天文台の現状と今後】

ALMA特別セッションは、年会3日目の3月20日16:45から約1時間、A会場で開催され、多数の参加者があった。最初に、Paul Ho氏（東アジア天文台長）からイントロダクションとして、東アジア天文台の設立された経緯やミッション、また、ヨーロッパ南天天文台（ESO）を例にとり、アジア地域で協力することの意義や重要性、さらに、東南アジア諸国も含めた東アジア天文台の今後の見通しなどが示された。引き続き、林正彦氏（国立天文台長）により、国立天文台の今後の将来計画は国際協力なくしては成り立たないこと、経済的にも急成長を遂げた東アジア地域との協力関係が今後非常に重要となることなどが示された。次に、河野孝太郎氏（東大天文センター教授）により、日本の電波コミュニティからの観点として、東アジア天文台の進めるジェームズ・クラーク・マクスウェル望遠鏡（JCMT）の重要性や、将来の大型電波望遠鏡建設に向けての東アジア天文台への期待などが述べられた。最後に、長尾透氏（愛媛大学教授）により、日本の光赤外コミュニティからの観点として、東アジア地域とのサイエンスコラボレーションの実例や、東アジア地域とのコラボレーションのさらなる促進に向けた、東アジア天文台に対する要望などが示された。参加者からも、東アジア天文台に対する期待の声とともに、東アジア地域での協力関係の具体的な提案などが聞かれた。また、セッション終了直後の懇親会でも、Paul Ho氏と熱い議論を交わす光景も見られた。今回の特別セッションを通じて、日本のコミュニティに広く東アジア天文台を知っていただくとともに、東アジア地域との協力関係の可能性について認識を共有できたと考えられる。今後とも、コミュニティからの意見を吸い上げる努力をしていきたい。

（大橋永芳）

## 〈企画セッション〉

## 【始動, HSC戦略枠プログラム】

Hyper Suprime-Camを用いた戦略枠プログラムが始動した。これは、すばる望遠鏡300晩を用いた前例のない規模のプロジェクトで、暗黒エネルギー、暗黒物質、さらに最遠方銀河から天の川銀河まで、実にさまざまなサイエンスができるサーベイとなっている。今回の企画セッションは観測開始から1年のタイミングで開催され、サーベイの現状をまとめるとともに、より多くのユーザーにHSCデータを利用しサイエンスをしてもらうことを目的として開催された。

4件の基調講演に加え、12件の口頭講演の申込みがあり、年会3日目の午後と4日目の午前のセッション(A会場)にそれぞれ70-80名の参加があった。

基調講演では宮崎聡氏(国立天文台)による装置の紹介の後に、高田昌広氏(Kavli IPMU)からサーベイが目指すサイエンスやサーベイの進捗状況、さらに共同研究ポリシーの概略の説明があった。引き続いて、古澤久徳氏(国立天文台)からデータ解析の詳細な講演があり、高田唯史氏(国立天文台)にユーザーの視点に立ったデータベースの使い方を解説していただいた。一般講演では測光的赤方偏移、弱い重力レンズ効果、AGN/QSOサイエンスとそれをサポートする準解析的モデルに基づく銀河カタログ、さらには太陽系内天体から超新星まで、HSC戦略枠プログラムのサイエンスの幅の広さを象徴するような議論がなされた。このHSCサーベイはまだ始まったばかりである。今後のさらなる観測により、all-Japan体制で世界に向けて多くのインパクトあるサイエンス結果を出せることを強く期待したい。

(田中賢幸)

## 【分子雲衝突と星形成】

最近、大質量星形成における分子雲衝突の重要性が、大質量星形成、Spitzer bubble、衝突銀河の爆発的星形成、銀河系中心の高密度ガス雲などの観測的に幅広く示されており、これを受けて数値モデルによる分子雲衝突の研究も、乱流、磁場、UV feedbackを取り入れるなどの進展がある。こうした成果をもちより、分子雲衝突による大質量星形成の可能性を探り今後の研究の発展を議論することを目的として本企画セッションは行われた。Tennetなどにサーキュラーを配信した結果、4件の基調講演に加え、18件の口頭講演の申込みがあった。セッションは、年会2日目の午後から3日目の午前にかけてA会場にて行われ、各セッションに約100名近い参加者があった。分子雲衝突の観測的研究および理論的研究の成果が紹介され、

今後のサイエンスについての活発な議論が行われた。

基調講演では、羽部朝男(北海道大学教授: 分子雲衝突と銀河の星形成)、井上剛志(国立天文台助教: 分子雲衝突による衝撃波の物理とコア形成)、鳥居和史(名古屋大学博士研究員: 分子雲衝突による大質量星形成の観測的研究)、藤井浩介(東京大学DC: 大マゼラン星雲のガスシェル衝突による星形成)のレビューが行われた。また、講演では、分子雲衝突と星形成の関連を示す観測(巨大星団形成、コンパクトH II領域、銀河中心の衝突分子雲、銀河衝突による分子雲衝突など)や理論的研究(分子雲乱流の衝突流による星形成、UV feedbackの影響など)の報告があり活発な議論がなされ、分子雲衝突が大質量星形成や大質量星団形成においてたいへん大切な役割を果たす可能性があることが議論され、今後の研究の発展方向を展望する重要な契機となった。

(羽部朝男)

## 〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催、日本学術会議物理学委員会IAU分科会の後援で、2015年3月18日(水)17:30より19:00までA会場にて「トランス・サイエンス時代の天文学」をテーマに行われた。

参加者数は、約120名であった。ここ数年の春の年会における天文教育フォーラムは、天文学と社会との関係の再検討を共通テーマとして実施されてきた。これまでは、関係性の現状認識を天文学コミュニティの内外からそれぞれの視点で行ってきたが、今回は、これから先の天文学と社会の関係性について、トランス・サイエンス的課題への天文教育普及のあり方を議論した。話題提供として、まず、京都大学の磯部洋明さんに「現在、社会との接点では、どのようなことが起きているのか?」について、宇宙総合学ユニットの活動を通じて紹介をいただいた。また、長島天文台(ハンセン病の療養所内の天文台)にて京都大学花山天文台初代天文台長との交流があった方々への聞き取り調査についても紹介があった。それらは、科学の入口という側面以外で、天文学と社会とのかわり方やその意義を考える必要を喚起するものであった。次に、大阪大学の小林傳司さんには「トランス・サイエンスとは何か?」について、その背景や考え方について説明いただいた。1999年のブダペスト世界科学会議での宣言、1970年以降、科学の黄金時代が終わり、人々の意識が変容していく様や、1972年のA. Weinbergによる「トランス・サイエンス=科学に問うことはできるが、科学だけでは答えることができない問題群」への意志決定(専門家だけでは決めず、社会で議論して最

終判断は社会が決める)について紹介があった。最後に、国際天文学連合会長の海部宣男さんより、天文学者としての立場から、「トランス・サイエンス時代の天文学」について、国際的視点と日本的視点の双方からお話をいただいた。国際天文学連合が、科学教育や科学の普及において大きく寄与していること、天文学と社会とのかかわりにおいて、普及活動が重要となることなどのお話があった。議論の時間では、イタリアでの地震予知の結果に関する裁判に関する見解や、科学でないものに対してどのように解をみつけるのか?、社会との関係における大学の役割などについて、活発な意見が交換された。なお、登壇者の皆さんから提供いただいたスライドデータは、天文教育普及研究会のホームページ内の<http://tenkyo.net/forum/2015-1spring.html>において公開されている。

(石井貴子)

#### 〈研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演〉

年会2日目の3月19日16:45から、2014年度研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者およびタイトルは以下のとおりである。

##### 研究奨励賞受賞記念講演

井上剛志氏 (国立天文台)

「星間空間の衝撃波」

田中孝明氏 (京都大学)

「フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡で探る超新星残骸における宇宙線加速」

村瀬孔大氏 (ペンシルバニア州立大学)

「高エネルギーニュートリノで切り開くマルチメッセンジャー天文学」

##### 林忠四郎賞受賞者講演

小松英一郎氏 (マックスプランク宇宙物理研究所)

「インフレーションの観測的証拠を探して: 15年間の研究成果と、最後の一步」

#### 〈懇親会〉

年会3日めにあたる3月20日(金)の夕べ、懇親会が開催された。会場は、阪大豊中キャンパス内のカフェテリア「らふおーれ」。前日までの2週間に及ぶ改修工事でびかびかの床が、開始時間の17:15には人で埋まった。参加者は計287名(一般169名、学生待29名)で、このうち当日申込みは57名(一般27名、学生30名)であった。

会は開催地理事の林田の進行で開始し、大阪大学副学長の東島清理事からの歓迎の挨拶をいただき、つづいて、櫻井隆天文学会理事長の乾杯で宴が始まった。今回は、大阪で製造されているお酒を各種集めた。特に、箕

面地ビール3種類を樽生サーバーで提供した結果、行列のできる人気となった。マッサンこと竹鶴政孝氏は、阪大工学の前身の大阪高等工業学校卒業ということで、ゆかりのハイボールも用意した。一方、開始時にテーブルに並べた料理の多くは、参加者の旺盛な食欲の前にまたたくまに消費された。ただし、大阪ゆかりのソーセージ、豚まん、串かつ、たこ焼きは、順次カウンター前に提供していったので、行列をしていただいたものの、終了時まで堪能いただけたと理解している。最後に、次回開催地理事の須佐元氏から甲南大学での秋季年会の参加呼びかけがあり、散会となった。

(林田清)

#### 〈保育室〉

保育室を大阪大学全学教育講義A棟会議室にて開設した。10家族子ども11名の利用があった。準備にあたり大阪大学のスタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(峰崎岳夫, 中道晶香)

#### 〈ジュニアセッション〉

第17回ジュニアセッションが、日本天文学会の主催、天文教育普及研究会、高校生天体観測ネットワークの共催、日本学術会議IAU分科会の後援で、日本天文学会2015年春季年会最終日の3月21日、大阪大学豊中キャンパスを会場として行われた。口頭とポスターでの発表が55件、ポスターのみの発表が30件、合計85件の発表が行われた。この中に、タイからの高校生6名による発表(6件)も含まれている。なお、プログラムや各講演の予稿集がジュニアセッションHP (<http://ursa.phys.kyushu-u.ac.jp/jsession/>)より見ることができる。ぜひ、生徒たちの力作をご覧いただきたい。

2000年春に17件の発表から始まったジュニアセッションも、毎年、発表件数が増加し、2012年の金環日食の年度の2013年春(第15回)には81件、2013年のアイソン彗星の年度の2014年春(第16回)には82件の発表があった。今回は、大きな天文現象がなかったにもかかわらず、85件の発表申込みがあった。このため、口頭発表では、ジュニアセッション初のパラレルセッションを実施した。ジュニアセッションへの参加者は、生徒や引率の教員など400人、および、研究者など学会参加者など、合計500人であった。さて、研究発表は、11の分野で行われた。午前中は美しい大阪大学会館の大ホール(年会J会場)にて、「タイセッション」6件、「全体口頭発表」7件、および、ポスターアピールタイムを行った。その後、大阪大学第二体育館にて、2時間のポスターセッションを行っ

た。午後は、大阪大学会館（J会場）と全学教育講義B棟1F大講義室（年会A会場）に分かれての平行セッションであった。J会場では、「夜空の明るさ」7件、「位置天文・太陽」5件、「月食」5件、「月・流星」5件、A会場では、「装置・宇宙開発」5件、「宇宙ミッション」5件、「小惑星・恒星」5件、「恒星・銀河の世界」6件の口頭発表があった。発表件数の多さから、口頭発表は各学校で1件のみに変更していただいたにもかかわらず、1件当たりの発表時間は僅か5分（タイセッションは、6件の発表および質疑を含めて30分）と短くせざるをえなかった。一方で、ポスターセッションは、昼の時間を確保し、生徒同士や研究者と間の議論や交流が進んだ。座長は、3月21日の午前中は、野上大作（京都大学）、竹内彰継（米子工業高等専門学校）、午後のJ会場は、松本桂（大阪教育大学）、穂積正人（兵庫県立舞子高等学校）、午後のA会場は、真貝寿明（大阪工業大学）、山田隆文（奈良県立青翔中学校・高等学校）に務めていただいた。また、マイク係として、三田祥雲館高等学校の現役の生徒とOBの皆さん、洛東高等学校の皆さんにお手伝いいただいた。なお、3月21日の夕方から22日の午前中にかけて、加古川市立少年自然の家で開催された高校生天体観測ネットワーク全国フォーラムの中でジュニアセッション交流会を催していただいた。

今回のジュニアセッションでの特徴として、天文部の部活動として長期にわたる観測の報告（例えば、都立立川高等学校による70年に及ぶ太陽黒点観測の成果や、塩尻市立丘中学校による2年以上の均時差の測定からケプラーの第2法則を導出するなど）がなされている点が挙げられる。ジュニアセッションでの発表を目標に、一つのテーマを長年継続している様子が見受けられる。また、小学生の発表が6件、中学生の発表が11件（中高生混合グループ含む）と高校生下の発表も多数あったことにある。いずれの発表も身近な題材をテーマとし、自分たちの観測データを使って展開する、すばらしい発表であった。さらに、今年もタイからの発表があり、ポスターセッションなどでは、国際交流も盛んに行なわれた。

これらすべての催しに対し、開催地理事の林田清氏、ポスター会場担当の深川美里氏、および、運営に携わった学会関係者、ジュニアセッション実行委員、ジュニアセッション世話人の皆さんを始め、多くの方々にご多大なご協力をいただいたことに、改めて感謝の意を表したい。

ジュニアセッションも16年目に突入し、いまや学会期間中の最大のセッションになっている。これまで一貫して、「すべての高校生（児童・生徒・学生）に開かれ

ている発表の場」を提供することを基本方針に、あえて順位や賞を設けることなく、「高校生同士が議論できる・研究者との交流ができる」環境を作ることを目的として運営してきた。今回は、学会会期中が、卒業式や終業式などと重なったため、最終日に口頭発表・ポスターコアタイムとしたが、例年に比べて、研究者の参加が少なかったことはやや残念であった。来年春の学会は、年度末の平日開催になるので、高校生や指導教員にとっては、参加し難い日程になる。来年のジュニアセッションは、今後の発展への試金石になるだろう。今後の運営にもご配慮のほど、よろしくお願ひしたい。

（大西浩次）

#### 〈公開講演会〉

年会4日目にあたる3月21日（土）の夜、大阪市立科学館にて公開講演会が開催された。会場は同館のプラネタリウムホール、テーマは“プラネタリウムと天文学の夕べ”，サブタイトルが“大阪市立科学館スペシャルナイト”である。プラネタリウム投影と天文講演を融合した催しとして企画した。施設の定員が限られるため、事前予約（インターネットおよび往復はがき）をお願いした。1月末に告知をはじめ、2/10に先着順で予約受け付け開始したところ、ほぼ1日で定員300名に達した。以降の申込みを多数お断りすることになってしまったことは残念である。

当日の開場は一般投影のあとの17:30、講演会開始は18:00。事前予約から1月以上たっていたため一部キャンセルがあり、最終的に261名の参加者となった。大阪市立科学館の江越航学芸員の司会で始まり、櫻井隆理事長からの挨拶をいただいたあと、照明が消され、直径26.5mの巨大ドームに星空が投影された。今夜の星空が江越氏の解説で紹介された。

前半の講演は、系内系外の惑星に関する話題である。まずはじめに、大阪大学助教の深川美里氏による“最新観測装置で迫る、系外惑星の誕生”というタイトルの講演（約30分）があった。系外惑星の発見、惑星形成モデル、原始惑星系円盤（および残骸円盤）の解説のあと、すばる望遠鏡による赤外画像、ALMAによる電波画像で、惑星形成の現場がまさに見え始めているホットな研究の現場が紹介された。

つづいて、大阪大学教授の寺田健太郎氏から“隕石から探る太陽系の歴史”というタイトルの講演（約40分）があった。太陽系惑星の2種類の分類、その起源が紹介されたあと、例えば地球大気の組成がいかに絶妙な条件で実現されたものか、解説がなされた。さらに、隕石の同位体分析で太陽系形成の年代、さらには、親の星を探る研究の最前線が紹介された。2講演

のあと、再び照明が落とされ、惑星形成の解説アニメーションが大迫力の全天周画像で投影された。最後に、2講演分の質疑応答を終えて、前半を終了した。

休憩のあとの後半は、全天周の画像によるブラックホールの解説が始まった。ブラックホールに吸い込まれる際のムービーの迫力は、ほかでは味わえないものだった。そのあと、愛媛大学宇宙進化研究センター長の谷口義明氏による、“宇宙はなぜブラックホールを造ったのか？”というタイトルの講演があった(約40分)。ブラックホールの紹介から始まり、宇宙の進化の中でブラックホールがどう進化していくか、未来に向かった雄大な時間スケールの(捉え方によっては悲しい、捉え方によってはわれわれの幸運に感謝する)ストーリーが披露された。最後に質疑応答があり、予定を少し延長した20:45に終了した。ホールの外では講演者の著書販売もあり行列ができる盛況で、講演者への個別の質問もなかなか終わらなかったが、施設の関係もあり閉場となった。

参加者による終了後のアンケートをみても今回の催しは好評で、(天文学会年会とは独立ながら)次の機会のことを相談し始めている。なお、この講演会は大阪市立科学館、大阪大学の共催によって、大阪府教育委員会の後援、大阪大学21世紀懐徳堂の協力で開催された。

(林田清)

(年会実行委員長: 宮田隆志)

## 2015年度内地留学奨学金支給者の決定について(報告)

内地留学奨学金選考委員会

委員長 松村雅文

天文月報2014年7月号で表記の奨学金について募集しましたところ2名の募集がありました。選考委員会で研究計画、奨学金の用途につきまして詳細に吟味、検討した結果、下記のように奨学金支給者を決定しましたのでご報告します。

氏名: 坂江隆志

職業: 高等学校教諭

研究題目: 自作分光器による太陽の多波長分光観測から求められる物理的解析とその結果の検証

受入機関および指導教官: 国立天文台 花岡庸一郎

支給金額: 125,000円

氏名: 佐藤勲

職業: 自営業

研究題目: 6月うしかい座流星群の4次元ダストトレ

ル計算

受入機関および指導教官: 日本大学 阿部新助

支給金額: 125,000円

## 編集委員会より

### ご挨拶

天文月報は、会員の研究活動を交流する重要なメディアです。引き続き、若手研究者をはじめ会員の多彩な研究を紹介していきたいので、積極的な投稿をお願いします。また、天文学会や天文学を巡る状況も変わりつつあります。大局的な動きも特集などで紹介していきたいと思っておりますので、ご提案を歓迎します。編集委員の仕事はいろいろな記事を細かく読むことになり、個人的にも非常に勉強させていただいています。編集にも興味をもってご意見をいただけると幸いです。ともあれ、天文月報を今後もお楽しみください。

編集長 青木和光(国立天文台)

今年4月より、初めて当編集委員会に加えていただくことになりました。本来の専門分野は太陽物理学ですが、この分野では来年、ひので衛星が打ち上げ10周年を迎えますし、さらに新たな将来計画として、Solar-C衛星計画やそれを地上でサポートする、太陽圏環境変動観測ネットワーク事業が動き始め、この月報でお知らせすべき話題には事欠かないものと思います。一方、私自身はここ数年、純粋な天文学よりも太陽活動の観測やデータベース整備を通した宇宙天気研究分野とのかわりが強くなり、地球超高層大気や磁気圏の研究者の方々との交流が深まってきております。そういった、天文学の周辺学問分野への広がりを感じさせるような記事などもこの月報に時折り含めていくことができると幸いに思います。が、そもそも自分の大学や天文台内の会報などの編集をする際も、いつも締め切りを過ぎてしまうことばかり、といったバタバタ具合ですので、まずは皆さんにご迷惑をお掛けしないよう、校正作業などのノルマをコツコツとこなすところから始めさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

上野悟(京大・理・附属天文台)

引き続き編集委員を務めます大栗です。1期目については、いくつか面白い記事をアレンジできた一方で反省点も多々あり、これを踏まえてさらに貢献度を高めていきたいです。特集やシリーズも提案できればと

思います。よろしくお願いします。

大栗真宗（東京大学）

このたび編集委員を務めさせていただくことになりました奥村です。これまで携わってきたさまざまな仕事の経験を生かし、なるべく幅広い分野の話題を提供できるよう、単に原稿を集めるだけではなくいろいろな企画も提案していきたいと思っております。よろしくお願いします。

奥村真一郎（日本スペースガード協会）

あっという間に二期目のスタートを迎えることになりました。二期目も新鮮な気持ちで面白い研究成果に目を光らせて一期目より積極的に原稿依頼を行っていくと思っています。

富永望（甲南大学）

力不足ではありますが4月から編集委員を務めさせていただきます。4月から勤務先を異動したので、職場でも新任となりました。

萩原喜昭（東洋大学）

子供にお風呂でアルキメデスの原理を教えてみたら、ものすごくいいびっくり顔で水位の増減を楽しんでいました。この「エウレカ」な感情を忘れず今期も頑張らせていただきます。

馬場彩（青山学院大学）

今期も引き続き編集委員を務めます。アルマ望遠鏡の成果も次々と発表されるようになってきましたので、この画期的な成果たちを天文月報でも多く取り上げていきたいと思っております。よろしくお願いします。

平松正顕（国立天文台）

引き続き編集委員を務めさせていただきます。幅広い分野でいろいろな記事を集めていきたいと思っております。また特集なども企画していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

町田正博（九州大学）

東京大学・天文学教育研究センターの諸隈智貴と申します。4月より編集委員を務めさせていただきます。天文月報は、他分野の最新のトピックを基本的なところから学べる教科書として、これまでたくさんの勉強をさせていただきました。これからはそれを皆様にお届けする立場という責任を感じつつ、編集委員としての任務を果たすとともに、引き続き、最先端の天文学の勉強にも励んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

諸隈智貴（東京大学）

あと2年間、編集委員を続けさせていただくことになりました。これまでの2年間はほかの編集委員の方々のお仕事を拝見しながら、勉強させていただきました。後半の2年間では、できれば自分の研究分野の特集を組んでみたいと思っています。Hyper Suprime-Camの大型サーベイが動き出したので、太陽系小天体の研究分野でいろんな発見があることを期待しつつ、よろしくお願いします。

吉田二美（国立天文台）

## 訃報

赤羽賢司氏（元副理事長）が2015年4月22日にご逝去されました。享年88歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

青木和光（編集長）、上野悟、大栗真宗、奥村真一郎、富永望、萩原喜昭、馬場彩、平松正顕、町田正博、諸隈智貴、吉田二美  
平成27年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会  
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社  
定価720円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会  
Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595  
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)  
会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2015年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）